資源の解説 西側

⑦黄幡神社

創建の時期は不明だが、福島大和守親長が川の内堤防の守護神として創建したものと伝えられる。現在の建物は山陽自動車道の建設により復元再建されたものである。

⑧福島大和守の墓(伝承)

福島大和守の墓と伝えられている石塔で、大和守を名乗るどの人物のものかも不明だが、何基かの五輪塔の残欠と考えられている(写真矢印)。なお、現在の墓地は無関係の個人方のものである。

福島大和守

「川の内警固衆」と呼ばれた水軍の将で、歴代当主がこの名を名乗った。同氏は、元就毛氏の家臣であったが、後に毛利氏に付き、弘治元年(1555年)の厳島の合戦では水軍を率いて参加している。この付近を本拠地として勢力をもっていたらしく、江戸時代の文献「芸藩通志」には中筋の才ノ木神社の北側一帯に福島屋敷跡と記されており、この付近に屋敷があったものと考えられている。

⑨胡子神社

安川と古川に挟まれたこの地域は、古来より洪水に悩まされてきた。そのため堤防の守護神として島根県の出雲大社より大己貴命、事代主命を申し請け、嘉永元年(1848年)に建立された。祭礼は11月下旬。

⑩川の内用水

太田川と古川に囲まれた温井、中調子、中筋、東野、栗原の5地域を北から南へ貫流する用水路で、上井手、中筋井手、下井手の3本の幹線水路から構成されている。

灌漑と排水を兼ね、地域の農業、生活にとって重要な役割を果たしているが、誰が、いつ、どのような経緯で造ったかについての記録は発見されていない。ただ一つ、太田川改修で安佐大橋西詰から移設された「下井手樋門改造記念碑」が、中調子八幡宮の境内にある。

⑪倉本道路

大正時代の末頃、広島市へ出荷する野菜の運搬は川船に頼るしかなく、非効率的で農家の苦労も多かった。当時の川内村村長、倉本亮吉氏(1877年～1946年)は、地域産業の発展のため荷馬車が通行できる新たな2本の道路を計画した。一部住民の反対の声を押し切って整備した道路によって、荷馬車や後にはトラック等での運搬が可能となり農業や生活が大きく改善された。この功績を称え、地元では「倉本道路」と呼んでいる。

主な参考文献

安古市町誌／佐東町史／郷土の歴史探訪(安佐南区公民館ネットワーク事業)／東野 中筋 東原 ふるさと今昔(東野公民館)／広島市の文化財 古墳・古道調査報告((財)広島市歴史科学教育事業団)／そのほか、社寺の現地解説文など

●マップと資源の解説の見方

地図面の右側を折り返すと、地図の左半分に掲載された資源の解説を読むことができます。逆に左側を折り返すと地図の右半分に掲載された資源の解説を読むことができます。

右側を折り返す　左側を折り返す

広島城跡の風景

まちめぐり憩いの空間づくり事業について

安佐南区では、区の魅力を高める「魅力づくり事業」の一つとして、「まちめぐり憩いの空間づくり事業」（平成13年度～平成20年度）を実施し、区民の皆さんと一緒に自然、歴史、まちなみ、施設、住民活動、祭りなど、地域の特徴ある資源を生かしたポイント（空間）や、これらを結ぶルートづくりを行い、平成20年度までに全18ルートが完成しました。

このマップは、平成16年度に開催された「まちめぐり憩いの空間ルート研究会」において、古市、東野・川内地区に在住の方を含む区民メンバーが調査・検討した結果をまとめたものです。

最寄駅方面へはアストラムライン、川内方面へは広島交通安佐大橋行きや第一タクシーの循環バスが便利です。

※運行時刻、所要時間、経由地などは、運行会社にご確認ください。

あさみなみ散策マップ ～東野・川内ルート～

発　　行：広島市安佐南区役所 地域起こし推進課 ☎082-831-4926
制作協力：まちめぐり憩いの空間ルート研究会
発行年月：平成17年(2005年)3月 初版
平成21年(2009年)3月 改訂
平成25年(2013年)3月 改訂

東野・川内ルートとその周辺について

東野地区・川内地区

太田川と古川に挟まれた平坦地に東野・川内の両地区があります。太田川の流れによって肥沃な土壌が形成され、古来より農村集落が点在していましたが、一方では度重なる川の氾濫に苦しめられてきた地域です。

東野地区は現在の古市・中筋地区とともに明治22年(1889年)、三川村となり、昭和18年(1943年)の町制施行に伴って古市町となりました。さらに昭和30年(1955年)には、西側に隣接する安村と合併し安古市町となりました。

また川内地区は、かつての温井村と中調子村が明治22年(1889年)に合併し川内村となり、さらに昭和30年(1955年)には隣接する八木村、緑井村と合併して佐東町となりました。

昭和48年(1973年)、両町を含む安佐郡3町が広島市に編入され、昭和55年(1980年)の政令指定都市移行を受けて、現在の安佐南区の一部となりました。

昭和25年(1950年)の太田川と古川

平成13年(2001年)の太田川と古川

今では、市街化の進行によって多くの農地が住宅に変わってきましたが、広島市の近郊農業地域として野菜などの生産は続けられており、漬物で有名な広島菜の産地にもなっています。

太田川と古川と洪水

太田川に沿った平坦地は、川が運ぶ土砂が積もって生まれた地形です。氾濫原と呼ばれるこうした場所では、大きな出水で川筋が移動することがあります。古川は、かつて太田川の主流でしたが、慶長12年(1607年)の大洪水で氾濫した川の流れは、東野・川内を越えて現在の太田川の位置まで移り、水量の減った古川は太田川の支流になりました。

東野・川内の人々は、堤防を築き、建物を高い石垣の上に建てて、洪水から人命や財産を守る努力をしてきましたが、それでも大雨や台風によって度々大きな被害を受けたと記録されています。明治になり、治水工事の計画が立てられましたが、戦争などで事業が進まず、現在のように高い堤防と広い河川敷の整備が始まったのは終戦後のことです。

敷地を高上げした建物

正しい歩き方

せっかく歩くなら、正しく歩いて「健康ウォーキング」でしませんか？

胸を張り背筋を伸ばし肩の力を抜いてリラックス

ウォーキングは・・・肥満・高血圧等の生活習慣病を予防・改善するだけでなく、脳の活性化により、認知症や老化の予防、筋力アップによる転倒予防にも効果的です！

あごを引き目線はまっすぐやや遠くを見る

呼吸は自分のリズムで・・・

肘(ひじ)をやや曲げ腕を大きく振る

おなかを引き締める

つま先で蹴る

膝(ひざ)を伸ばして大きく前へ

かかとから着地

元気じゃけんひろしま21
～安佐南区では、「健康ウォーキング」を推進しています！～

この印刷物は再生紙を使用しています

東側 まちめぐり

①明円寺

この寺は、福島大和守真道の二男が慶長9年(1604年)に開基し、山号を福島山という福島氏ゆかりの寺である。本堂の大きな屋根と、境内のイチョウの大木が目印である。

『福島大和守』については⑧参照

②中調子八幡宮と天満宮

中調子八幡宮は創建時期など詳細は不明だが、中調子村の氏神として仲哀天皇、応神天皇、仁徳天皇を祭るという。木製の鳥居が特徴的である。祭礼は11月3日。

また同じ境内にある天満宮は、安芸国守護武田刑部少輔義信の祈願所として建立されたと伝えられ、祭神は菅原道真。御神体木像は、太宰府天満宮の梅木にて彫刻されたという。

③琴芝羅社

由来等についての記録がなく、詳細は不明である。太田川の川土手にあり、香川県の金刀比羅宮(こんぴらさん)に通じる社名であることから、漁業航行、農業繁栄などの神として祭られているものと思われる。

社殿には、柿本人麻呂、紀貫之ら「三十六歌仙」の絵の一部が飾られている。

④堤平神社

天保年間（1830～1843年）の建築とあり、昭和29年(1954年)の太田川堤防の改修工事に伴い、現在の場所に移された。

祭神は泉津導守神。祭日は、1月1日の歳旦祭、4月29日の春祭り、10月14日の例大祭となっている。

境内の手水鉢は舟石と呼ばれており、横に置いてある古い舟石には添火穴(祈願の痕跡)も多数見受けられる。

⑤善教寺

もとは禅宗で坡岸院と称したが、長享2年(1488年)僧教円の時に真宗に改宗、宮前山を号し、善教寺と称した。広島超専院の末寺である。本堂の廊下に吊ってある梵鐘は、元禄5年(1692年)藤原宗久という鋳物師の作。戦時中の供出を免れたこの鐘には、二体の天女とその鐘を取り巻く唐草模様が浮き彫りで施されている。

探してみよう！東野・川内の逸品

地図上の同じマークの場所に行ってみましょう

とんこ石の石垣

この辺りでは、丸い大きめの河原石を「とんこ石」と呼びます。角張った山の石が入手しにくいため、仕方なくとんこ石で石垣を築いてきました。築り合う石と上手く組み合わさるように曲面を削ぐなど、高度な技術と手間がかけられています。

さらに、一つ一つの石の前面を平たく切り落とし、積み上がった石垣の全体に凹凸のない平面に整えたものも残っています。これらは、概ね江戸時代末期から明治時代中期に築かれたものだそうです。

※写真の石垣は後に側溝を埋めています。

ハンヤ

灰小屋がなまったもので、農業に使う焼き土を作るための小屋です。笹や雑木などの可燃物と土を交互に重ねて火を付け、じわじわと長時間土を焼くそうです。

東野に残っているものは、4m四方くらいの建物ですが、火を使うため、壁の下半分は石と土によって厚い壁が作られています。このあたりの農家の姿を伝える貴重な建物です。

井手の洗い場

川の内用水の井手には、ところどころに階段が設けられていますが、これを「洗い場」といい、野菜や農機具を洗ったり、洗濯もしていたそうです。

こうした洗い場にはおのずと人が集まり、『井手端会議』が始まるのです。井手は農業用水だけでなく、日常生活にも不可欠なものでした。

その他いろいろあるよ！

自然

稲藁干し(明円寺付近)

野菜販売

雄大な
太田川の眺め

広島菜畑の風景（最盛期は11月～12月）

川の内用水の流れる街並み

信州の野沢菜漬、九州の高菜漬とともに日本三大菜漬として知られています。

「佐東町史」によると、明治の中頃、川内村温井の農夫木原才次氏が京都から持ち帰った株を、在来の京菜と交配させた新種が広島菜の原点とされています。なお、この京菜については、江戸時代、藩主福島正則の参勤交代の折、お供の者が京都本願寺から株を持ち帰り、それが広島で広く栽培されたものだということで、こちらを広島菜の始まりとする資料もあります。

「広島菜」って？

川内辺りの畑は、夏は、枝豆やキュウリなどの夏野菜が目にとまりますが、十一月から十二月の最盛期には、一面の広島菜の畑に変貌します。その光景は、とても壮観です。

また、地元には漬物工場も数件有り、余裕があれば、訪ねてはいかがでしょう。

夏の枝豆畑が…

秋には広島菜畑に

●太田川の河川改修

昭和20年(1945年)の被爆と同年9月の水害などで中断されていた太田川治水工事は、昭和22年(1947年)にようやく再開されることになりました。度重なる洪水被害に悩まされた住民にとって、工事の再開は朗報だったことでしょう。

工事では、太田川放水路の開鑿、高瀬堰の設置などとともに、川幅を拡幅し、高水敷を備えた新しい堤防が整備されました。施行した堤防を真っ直ぐに造り替えたため、新しい土手の内側(市街地側)に古い土手が残っている場所を見ることができます。工事は昭和40年(1965年)、ようやく完成をみました。

【写真上】三篠の橋脚の右側の道が旧土手、左側の一段高い部分が新土手です。

【写真中】石公園や東野公民館の東の河川公園は、新土手の内側(市街地側)に残った旧土手を利用して作られました。

【写真下】川の拡幅によって消えた釘「高瀬の浜」は、現在の安佐大橋西詰め付近にあった川船港で、太田川上流域と広島を結ぶ運搬の中継基地として、石垣を巡らした台地の上に舟運業や船大工、漁業者など30軒程が集まり賑わっていたそうです。遊船「矢口の渡」もここを発着していました。

大正12年頃(佐東町史より)

●東野國民學校跡(門柱)

明治6年(1873年)に就道館として創立し、昭和29年(1954年)の閉校まで数多くの名称変更をしてきました。東野集会所の敷地に残る門柱の表札、「東野國民學校」(昭和16～21年度)もその一つです。

●記号の説明●

- まちめぐりルート
- 0.3 区間の距離 単位：km

〈注意場所など〉
- 横断注意
- 信号交差点
- 歩行注意
- 階段
- トンネル

〈まちめぐり資源〉
- 公園
- 河川・水路
- 神社、寺院、碑、その他由来のあるもの
- 特徴ある風景・街並み
- 眺望場所
- 樹木
- 資源の解説板

〈目標物・その他〉
- バス停留所
- C コンビニエンスストア
- S スーパー・ショッピングセンター
- G ガソリンスタンド
- 〒 郵便局
- PB 交番
- WC トイレ

※注）①青番号で示したものは裏面に解説があります。